

《 じよ 恕の心 ~つなげよう 思いやりの輪 無限の可能性 ~》  
〈 オリエンテーション・入会式・部活動顧問紹介式 〉

8日(火)には全校オリエンテーション(生活・清掃・給食・学習等)と生徒会入会式・部活動顧問紹介式がありました。

まずは生活オリエンテーションです。西体育館への入場は2つの入口からになります。体育館で全校生徒の入場を見守るのは校風委員会の諸君です。「GOOD！」

「静かに！」のプラカードを掲げ、各学級が気持ちよく整列できるよう活動をしてくれます。生活目標を「凡事徹底」とし、「時」と「身だしなみ」に気持ちを傾けられるよう丁寧に伝えてくれました。実際に身だしなみのモデルを示してくれながらの分かりやすいプレゼンテーションです。

続いて整美委員会の諸君は、黒板を床に見立てての雑巾がけの様子をひと目見て理解できるアイデアで伝えてくれます。また清掃前の「1分間の黙想」の意味についても話してくれました。全校生徒諸君はそれぞれの分かりやすい説明に食い入るような眼差しで発表を聴いていました。

次は給食委員会からです。配膳の身支度に身を包んだ委員会のメンバーが、コンテナ室の動き方や配膳について説明してくれました。オリエンテーションを受けた、その日の食事・清掃の様子です。給食委員会の上級生は1年生をリードしてコンテナ室まで連れてきてくれ、教室で配膳を手伝ってくれています。清掃では、廊下に揃った生徒諸君が手ぬぐいをビシッとかぶり、黙想をしています。膝を抱えた生徒たちが頭を下げ、ひとりになりそれぞれの清掃分担に向かっていきました。

学校生活には、ちょっとずつ我慢しながらのルールがあります。ひとりひとりがみんなのために少しの我慢をし、節度ある学習環境を作り上げていく、・・・その



ことを生徒会諸君が彼ら自身の言葉や表現法でプレゼンしてくれました。生活を律する力が、学力であり、生きる力に通じていくんですね。

今年の生徒会スローガンは「<sup>じよ</sup>恕の心 ～つなげよう 思いやりの輪 無限の可能性～」です。「恕」とは「許すこと。相手の立場に立って思いやること。」です。人と人との優しい交流・つながりを心がけ、全校を引っ張っていかうとしてくれている3年生、生徒会の皆さんに敬意を表します。

最後は学習オリエンテーションです。ステージ前では生徒会三役の齋藤柊くん・羽生智哉くん、矢島みのりさんが鉛筆を走らせながら自己追究に励んでいます。今年も「分かる授業」の約束①チャイム・スタート②目と心で聴こう③自分の考えを書こう、の3点の説明が井沢先生からあります。「書くこと」はそれまであやふやであった考えを確かなものにしたり、1時間の追究を振り返り、次へつなげていく大切な学習活動です。



またエビングハウスの忘却曲線についても言及され、「覚える」ポイントが伝授されました。その後、国語科、数学科、英語科の追究についてそれぞれ高橋先生、宮崎先生、笠川先生がポイントを示してくれます。先生方も真剣に、そして楽しく学習への期待感と解説をプレゼンしてくれたのです。そして最後に、三役生徒の自己追究の良さを全校生徒諸君と共有しあいました。

ところで、保護者の皆さん「エビングハウスの『忘却曲線』って覚えてます??.....

この日は、まだまだ続きます。生徒会入会式に続き、放課後には部活動顧問紹介式が行われ、気持ちも新たに活動のスタートが切られました。顧問の先生の紹介後、部を代表して2名の諸君が部活動に寄せた決意を語ってくれました。

野球部の瀧澤勝哉君は「最後の大会で悔いの残らないようにしたいです。入部してからあっという間に2年間が経ちました。楽しかったことはもちろん、辛いことや苦しかったことも覚えています。でも辛いことや苦しかったことからたくさんことを学びました。だからこそ今の自分があると思っています。最後の大会で悔いの残らないようにするために、残りの時間精一杯取り組みたいです。3年生はあと数ヶ月、2年生はあと2年と数ヶ月。そう考えると本当にあとわずかしかありません。その短い期間をより良いものにするために、一生懸命に励みましょう。」と仲間呼びかけてくれました。



また美術部の須藤詩南乃さんは次のように発表してくれました。「美術部の活動は、主に個人制作とステージバックです。その中で、特に力を入れているのは部員全員で行うステージバックの制作です。ステージバックは銀河祭の時には場を盛り上げ、卒業式の時には体育館を華やかにする、とても大切な作品です。ステージバックは歴代の先輩方から創られており、歴史深いもの

でもあります。ですので、美術部としてはよりステージバックの質を高め、後輩に託していきたいです。」

3年生諸君の、熱くて精一杯の青春の挑戦が始まろうとしています。

## 《 桜の木の下で ～感じて・触れて・考えて～ 》

ある日の国語科の学習です。玄関前に出てきた生徒達はまず梅の木の下に行きます。玄関前の「梅」はちょうど見頃を迎えています。現在日本で「春の花」と言えば「桜」ですが、1,000年前は「梅」がそれであったこと。「梅の香」を愛でる日本人の文化が鎌倉時代頃から、はかない花びらの散り際に美を感じるようになり、「梅」から「桜」へ春の象徴が移行したことを学びます。

それから生徒達は校舎北側に移動して桜並木の下に立ち桜を見上げます。こちらはまだ三分咲きです。「桜」にちなんで、染織家志村ふくみさんの染色の過程のエピソードが紹介されます。ピンク色の布を織るのに最適な時期は花開く時ではなく、芽吹く直前の時期が適しているのだということを知ります。そして咲く直前の桜の黒っぽい幹からほんの少しの樹皮を分けてもらい布を染めるのだということを知ります。そしてそのごつごつした樹皮から染められた布が目覚めるような桜色に染まるということを理解し、さらに「桜の花」が冬の厳しい時を経て始めて花開くことに驚きを感じます。芽吹く直前の桜の木が、全身で鮮やかな桜色に染まろうとしているのですね。

その後、生徒達は教室に戻り、教室を出て感じて・触れて・考えた思いを「書くこと」で自身の中に定着させていくこととなります。

いよいよ授業が、学習が始まります。



## 《 2学年進級時のクラス替えについて 》

本校では一昨年度、学校の方針として、2年生に進級する際、クラス替えをすることにしました。本年度、2年生は新しい仲間とともに気持ちを新たに新年度のスタートを切りました。

2年に進級する際にクラス替えをすることについては、様々な考え方や意見がありますが、そのプラス面を最大限引き出せるよう努めて参りたいと思います。具体的には、次のようなことを期待しています。

◇中学校生活で、より多くの人と人間関係を築き、自分の可能性を最大限伸ばす。

◇2年生に進級するとき、中学校に入学した時のように自分を真っ白にして、新たな気持ちで中学校生活を再スタートする。

◇クラス替えをした2年次からは、広がった人間関係を大切に、「学級」という意識だけでなく、「学年」という意識を大切に、誰もが過ごしやすい学年・学校づくりを進めていく。

◇学年職員が、多くの生徒について理解を深められることを強みにして、個々の生徒のよさを一層伸ばしていく。



中学校1年次は、中学校生活に慣れるとともに、基本的な生活習慣や基本的な学習習慣等、中学校生活の土台をつくるのが大切になります。このことに加え、2年進級時にクラス替えをすることから、1年次の1年間は、互いの違いを認め合い、広く多くの仲間とよりよい人間関係を築く力を高めることも非常に大切になってきます。1年次は、学年の活動を特に大切に、「青色学級」の気持ちが持てるよう努めて参ります。ご理解の程、よろしくお願いいたします。

## 《 セクハラ・パワハラ相談窓口について 》

「スクールセクシャルハラスメント・パワーハラスメント相談窓口」が校内に設置されています。セクハラ・パワハラが重大な人権侵害に当たる行為であることを認識し、生徒が安心して伸び伸びと学ぶことができる健全で明るい教育環境を充実させることを目的としています。

相談窓口は教頭と養護教諭になります。よろしくお願いいたします。

## 《 全国学力・学習状況調査について 》

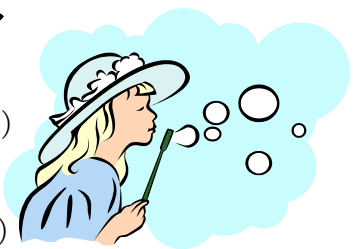
修学旅行明けの4月22日(火)に3年生対象の「全国学力・学習状況調査」が全国一斉(悉皆<sup>しっかい</sup>)に実施されます。本校でも国語A・B、数学A・B(Aは基本、Bは活用)・生活習慣や学習環境調査を5時間で実施します。また同日1年生対象のNRT検査を行います。(こちらは5教科の各分野・領域の前年度における学習の到達度を計るものです。)

両方の結果を日々の授業に反映させ、私たち教職員が授業改善に生かし、「より分かる授業」に取り組んでいきます。

～ ～ ～ ～ ～

春の喜びを詠む句をいくつか・・・

山又山山桜又山桜 (やままたやま やまざくらまた やまざくら) (阿波野青畝)  
しゃぼん玉色を尽くせしときに裂け (溝手田持)  
青蛙おのれもペンキ塗りたてか (芥川龍之介)  
みそっ歯の返事大きく一年生 (加藤美代子)



・・・・・・風薫る季節がやってきます。